

○プロジェクト研究1758-2

研究課題 「IPW(Inter-professional work)に向けた IPE(Inter-professional education)プログラムの再構築」

○研究代表者	学長	永田博司
○研究分担者	看護学科教授	加納尚美
(9名)	看護学科教授	吉良淳子
	看護学科准教授	富田美加
	理学療法学科教授	浅川育世
	作業療法学科教授	齋藤さわ子
	放射線技術科学科准教授	對間博之
	医科学センター教授	馬場 健
	人間科学センター講師	海山宏之
	付属病院教授	大瀬寛高

○研究年度 平成30年度
(研究期間) 平成29年度～平成31年度(3年間)

1. 研究目的

本研究の目的は、多職種連携及び協働のできる資質を持つ保健医療人教育をさらに発展させることである。具体的には、臨床や地域でのニーズにあった多職種協働実践(inter-professional work:IPW)に向けた多職種協働教育(inter-professional education:IPE)として、現行の教育プログラムの再構築と組織化を目指すこととする。

2. 研究方法及び結果

2-1. IPEに関する学術集会を通じたネットワーク形成

平成30年8月11日に日本保健医療福祉連携教育学会第11回学術集会を本学で開催することとなり、この企画・運営の過程において、本プロジェクト研究としても、IPE及びIPWに関する学内外の人的ネットワークの拡大を図ることができた。特に、本学の学生も参加した学生参加型ワークショップでは、複数大学間による学生間交流も図る好機となった。

また9月には第9回ATBH(国際多職種協働に関する学会)において、ポスター発表を行うとともに、国際的な情報収集及びネットワーク構築に努めた。IPE及びIPWの概念が国際的にも共有され、教育や実践例、その評価方法等について知見を得ることができた。特に、米国の大学や医療機関では組織的な取り組みと評価が展開されていた。今後、これらの波はさらに世界的に広がることが予測される。

2-2. 授業評価:科目別満足度調査

本学学務委員会で実施している科目別満足度調査の結果からは、4学科合同による必修科目について、1年生科目「チームワーク入門実習」で最も満足度が高く、次いで2年生科目「保健医療とチームワーク演習」、4年生科目「チーム医療演習」と続き、昨年度までと同様の傾向であることが示された。

2-3. 授業評価:IPE調査

上記3科目の受講前後に実施したチーム医療やIPEに関する調査では、例年同様にいずれの科目も受講後に理解が深まったということが示された。

2-4. 授業評価:「国際多職種協働実習」¹⁾

2-4-1. 科目概要

選択科目である「国際多職種協働実習」は平成26年度から開講され、本学初のまた全国的にも珍しい多職種協働を主眼においた海外実習である。オリエンテーションやサバイバル英語、海外実習5泊6日(平成26～27

年度は米国ロサンゼルス急性期から回復期の病院、高齢者施設の見学、高齢者施設での日本の文化を紹介するボランティア活動、米国医療に関する講義、及び実習経験のまとめと考察の口述発表で構成されている。海外実習時の施設見学は、各学生の希望に合わせて2～10名の少人数に分かれて行い、全ての見学には専門の通訳がつく。

2-4-2. 研究目的

今回、平成26～27年度に本科目を履修した学生が、IPEコースを全て修了した時点(4年生の3月)で、この科目の履修により何を不得、それが他のIPEコース内外の科目と、どのようなつながりがあったと考えているかを、授業評価の一部として理解することである。

2-4-3. 研究方法

平成26～27年度に国際多職種協働実習を履修し、平成28～29年度に卒業した4年生5名(PT3名、OT1名、NS1名)の研究協力を得て、半構造化面接を行った。面接時間は1人37分～90分であった。データ分析は、音声データから逐語録を作成し、各学生の「学び」と「他の科目との関連」に関する語りをコード化し、コードの類似性や相違性を検討し、コードの意味内容からサブカテゴリーとカテゴリーを生成した。

2-4-4. 結果

全員が国際多職種協働実習とのつながりを感じていた科目は、1年次のチームワーク入門実習であった。この科目で本学付属病院の各部門を見学したことによって、アメリカの病院との比較ができ、「理解の深まり」「新たな視点を得る」という思いが語られた。他の科目では、4年次の臨床実習とのつながりが語られ、実習中の「患者との接し方のモデルにする」という学生自身の行動規範への影響や、「多様なサービスの仕方に対する理解の広がり」により、色々な実習病院への心構えができ、実習時に大学で学んだこととの違いに遭遇しても戸惑いが少なかったこと、「多様な働き方と役割分担の仕方の認識」から、日本における同職種内や他職種との連携及び職場の物理的環境整備への想いが馳せられたことが語られた。また、「保健医療とチームワーク演習」をはじめとする保険制度に関わる講義が含まれる科目とのつながりも感じており、「興味が湧く」「問題点への認識の深まり」が、履修しなかった学生との違いとして語られた。

2-5. IPWとIPEとの接続に向けたシンポジウムへの参画

平成31年2月26日、本学SD・FD推進部会主催で行われた研修会において、プロジェクト研究メンバーも参画しIPWとIPEとの接続に向けた活動を行った。講師として招聘した4学科の卒業生4名が、学生時代の学びをふりかえるとともに現在の活躍ぶりを紹介した。どの発表もIPWの観点から、本学におけるIPEへの示唆に富むものであった。

3. 総括

今年度は、特に学内外の人的ネットワーク拡大や海外実習に関する授業評価、IPWとIPEとの接続等について、重点的に活動したことにより、IPWとの関連を考慮したIPEプログラムの多面的評価に向けた基盤を形成することができた。今後、IPEコース開始以降の時間的推移も含め、さらにIPE関連科目が効果的な学びとなるよう、継続的な分析を深める必要がある。なお、IPWに向けた卒業時のIPEに関するコンピテンシーの成果については、授業前後及び経年変化について分析中である。今後は、これらを踏まえて、IPEコースにおける学生の学びのプロセスを明らかにし、授業改善へとつながるPDCAサイクルの構築を図ることを目指す。

4. 成果の発表

- 1) 齋藤さわ子, 坂本由美, N.D.Parry, 富田美加, 吉良淳子, 滝澤恵美, 對間博之, 馬場健, 武島玲子, 加納尚美, 永田博司. 国際多職種協働実習を履修した学生の「学び」と他の科目との関連. 第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会(阿見)2018年8月
- 2) Mika Tomita, Takeshi Baba, Megumi Takizawa, Junko Kira, Hiroyuki Tsushima, Sawako Saito, Naomi Kano, Hiroshi Nagata. Effect of Interprofessional Education using Active Learning towards Teamwork in Healthcare. All Together Better Health (ATBH)IX (Auckland) 2018年9月

5. 参考文献

- 1) 齋藤さわ子, 坂本由美, N.D.Parry, 富田美加, 吉良淳子, 滝澤恵美, 對間博之, 馬場健, 武島玲子, 加納尚美, 永田博司. 国際多職種協働実習を履修した学生の「学び」と他の科目との関連. 保健医療福祉連携(2-4の記述については2019年公刊予定の抄録より引用及び一部改変)